

社団法人



長崎青年協会

NAGASAKI YOUNG GENERATION ASSOCIATION



国際交流ハタ揚げ大会 風頭公園にて

長崎青年協会憲章

我々は、会員の団結と相互扶助の精神の基に、自己の建設と会員の親睦を図り、もって地域社会の発展に寄与することを目的とする。

今月の行事

- 5日 理事会
- 17日 理事会
- 21日 定時総会
ホテルニュー長崎

NAGASAKI
YOUNG GENERATION
ASSOCIATION

MONTHLY 1989 APRIL
STYLE **4** No. 118

三月定時例会

会長挨拶



日時 平成元年3月22日
場所 ホテルニュー長崎

誓めの言葉をいただき責任の重さを痛感した次第でございます。これからは、二十周年を大きな節目として青年協会が更に発展していくことを願っています。

皆さんこんばんわ。桜の花もほころび初め、日増しに春を感じられる今日この頃となっております。

会員の皆様におかれましては、お子様の入学、あるいは進学と大変忙しい時だと思えます。

先日行なわれました青年協会創立二十周年記念式典も会員の皆さんの協力を得て、盛大にかつ成功の内に終わることができました。会長として大変嬉しく思うと同じに会員の皆様の御協力に対し、心から感謝を申し上げます。

又、諸先輩方から大変すばらしい式典であったと御

本年度の事業も、あと三月二十六日の国際交流委員会担当の国際風上げ大会を残すのみとなりました。最後の事業でありますので多くの会員の皆さんの御参加を期待しております。さて本日は卒業者を送る夕べでございます。OBの皆様にも御出席頂きましてありがとうございます。本年度は昭和二十三年生れの九名の方がめでたく卒業をされます。いずれの卒業者の方も、長年に渡り青年協会の活動に積極的に貢献を頂いた方々ばかりで卒業にあたりその感懐もひとしおであろうかと思えます。卒業されます皆様のこれまでの青年協会に対します御苦労に対して、深く感謝の気

持ちで一杯でございます。これからも私達、会員に対して今まで同様の御指導、御鞭撻下さいますよう御願ひ致します。

又、本日の卒業者を送る夕べに残念ながら入院の為に欠席致しております濱口康幸君は病院にて役員で、卒業式を済ませました。

最後に私事になりますがこの一年間、二十周年目の会長という事で、大変気苦労もありましたけれども、二役をはじめ役員の皆様、会員の皆様の協力を得て、どうかこの責任を果すことができました。どうもありがとうございます。

これからは、野上新会長のもと一致団結して協会の発展に努力してまいりたいと思えます。

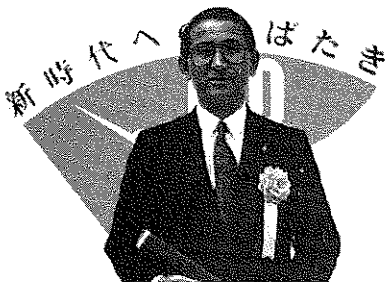


・中尾義文君 二月二十六日に、御結婚されました。おめでとうございます。

市制100周年記念式典において 青年協会云表彰さる

長崎市は、今年市制施行100周年を向かえ、今日1日記念式典が開かれこの一年間の100周年記念行事のスタートを切り、人口447千人の長崎市も、新しい1世紀へと歩み初め、本島市長も魅力のある長崎市づくり邁進し、市民の協力をお願いしたいと、決意を述べた。明治22年4月1日、長崎区が、長崎市となり、6カ町、54千人からスタートし大正9年、176千人、昭和15年25千人、同40年には40万人を超えるまでに発展する。しかしながら、死者約7万人をだした原爆による被災と、また57年による長崎大水害などの悲しい出来事もあり、この100年も平たんではなかった。

後、商工、水産、農林、教育など、市政に功労のあつた23人1団体と市政協力者として、461人36団体が表彰をうけた、その中で我々長崎青年協会も、市政協力者として、表彰をうけ、これは我々の日頃の活動が、認められていることであり、今後一層の事業の充実を計りさらに長崎市民のより深い理解を得、長崎市と共に未来を開く協力団体とならんことを希望する。



協会を代表して表彰を受けた野上会長

市制施行100周年式典では高田知事、及び本県選出国會議員、市議會議長、商工會議所会頭らの来賓祝辞の

平成元年度

役員抱負を

語る!!

●本年度青年協会会長

野上林八郎

前年度は江村会長のもと
会員皆様のお力添えにより
20周年記念式典が盛大に催
されました。来賓の方々を
はじめ、関係各位のご祝辞
も多数頂き、改めて青年
協会の活動についてご理解
ご賛同を頂いたものと思
っています。又今後さらに
30周年、50周年へ向けて、
会員相互、力を合わせて飛
躍し続ける青年協会を作っ
ていきたいと思えます。

さて、今年度は長崎市制
百周年、又来年度は旅博と
大きな行事が続きますが、
「89推進理事」「地域活性委
員会」を組織し、協力体制
を整えたいと思えます。又
2回目を迎える、「留学生の
集い」については、「市民参
加型」の方向へ向け有意義

なものになるよう努力し、
「みんなで築こうきれいな
長崎」「みんなで盛りあげよ
う長崎くんち」に続く協会
活動の3本目の柱にできれ
ばと思っています。又、パ
ンダサーカスについては、
施設の子供達や交通遺児等
多数招待し、昨年中止とな
った「おくんち」にかわり、
子供達によるこんでいただ
ければと思っています。

●総務担当副会長
劉 清才
本年度は、今後、青年協
会が歩み続けていくための
方向づけの年だと考えます。
これまでの基礎を築きあげ
ていただいた諸先輩方々の
労にむくいるためにも、理
事及び会員の皆様の御協力
をよろしくお願い致します。

総務委員会においては、
本年度より開始される会費
の自動振替制度をうけて、
財務も兼ねることになり、
初めての試みなので慎重に
見守っていききたいと思っ
ております。
例会委員会においては、

限られた予算、限られた日
程にあわせて講師を招くと
いうことは大変なことです
が、会員がより興味をそそ
られるような講師講演を、
又、例会のスタイルも今ま
での型にとらわれることな
くやってほしいものです。
国際委員会においては、

以上が私の担当する委員
会でありますが、私自身も
時間が許すかぎり、各委員
会に参加し、それぞれの意
見を理解し、尊重していき
たいと思えます。
よろしく願います。

●会員担当副会長
船越 正治
今年度、会員担当副会長
を引き受けるに当り、肩を
はらず精一杯、努力したい

とっております。市制百
周年及び旅博という大きな
イベントにおいて、青年協
会の知名度のアップを図り、
今年度のスローガンであ
る「地球的な視野と積極
的な行動そして融和」を忘
れる事なく、前進したいと
思います。

●事業担当副会長
桑田 敬悟
二十一年目を迎えるにあ
たり、成人式を過ぎた大人
として、新たな自らの道
を創りあげていく第一歩の

広報委員会は、広報誌を
もう一度見直してみようと
いう意欲でいっぱいですし、
会員開発委員会は、新しい
パンフレットを使い、増強
キャンペーンを、年2回行
う予定ですし、地域活性委
員会は、全体研修をはじめ
各種のイベントに参画する
予定です。3委員会、とても
意欲に燃えておりますので、
会員皆様の協力を、切にお
願ひして私の新任のあいさ
つとします。宣しく願ひ
します。

恒例事業を永続的に行っ
ていく事業委員会は、さら
に市民に喜んでもらえるよ
うな工夫を加え市民の中
に定着した事業をなして行
くと思えます。又、会員間の交
流はもとよりその家族、O
B、諸先輩との交流を交流
委員会では計画しています。
企画委員会は「おくんち」
の企画立案と、関係諸団体
からの要望を、自在に変化
させ、協会活動する大事な
委員会です。委員会とは別
に本年度は、「長崎歴史研究
会」が発足され、歴史ある
長崎の文化財保護、活用化
を永続的に支える会が生ま
れました。

最後になりますが、新年
度にふさわしい事業内容ば
かりですが、全会員の協力
なしでは成功しませんので
この場をかりて御協力を切
にお願ひ致します。

卒業者を

送る夕べ

平成元年3月22日
ホテルニュー長崎

去る3月22日、ホテルニュー長崎に於いて、卒業者を送る夕べが行なわれました。まずは、今年度の9名の卒業者が紹介されたのち、会長よりブレザーが贈呈されました。続いて一人一人が挨拶に立たれ、それぞれの心に残る思い出や、今後の青年協会に対する期待を語られました。

その後、懐かしいスライドが映し出されると、どの顔も感慨深げな表情で、画面をじっと食い入るように見つめておられました。

今年度卒業された方々は、いづれも、永年に渡り、青年協会の活動に貢献されてこられた明郎且つ個性豊かな方々ばかりでしたが、それだけに、卒業に際する寂しさもひとしおの様子で、その心情が、それぞれの挨拶の言葉の中にも、ひしひ

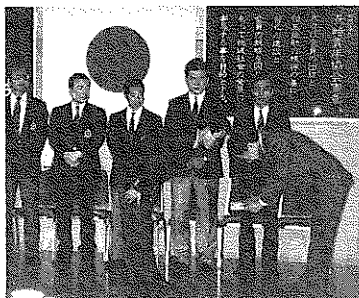
しと感じとることができました。

この日の会場は、いつもの例会や懇親会と変らぬなごやかな雰囲気の中にも、送る者と送られる者の、お互いの心の中でふれ合う思いやりを感じずにはいられませんでした。

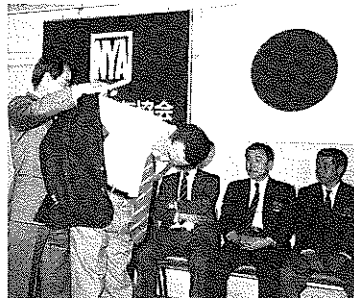
卒業者の皆様、どうぞこれからも、がんばって下さい。永い間、ほんとうに御苦労様でした。



卒業者の面々



卒業者より記念品目録贈呈



卒業者へブレザー贈呈式



会員交流より卒業者へ

卒業にあたってひと口

黒瀬 勝幸

S 23・4・12 生

いよいよ卒業となり、何とも言えない複雑な気持ちです。この十年間余り、仕事の次が協会活動でした。何がそれ程、協会活動に熱中させたかと今考えて見ると、いい仲間がいたからだと思えます。共に汗を流がし、いろんな事業をやり遂げた後の酒がなんとなくまかった事か、協会にいたからこそ出来た事です。それに人を見る目、人前で話す事その他多くの事柄を学ばせていただきました。今後の生活にしっかりと役立たせて立派なOBとなります。

素晴しい先輩、後輩、同窓生を与えてくれた青年協会に感謝します。本当にお世話になりました。

松本 義輝

S 23・4・15 生

「卒業を送る夕べ」では、会員のみなさま又、多くの

先輩には大変お世話になりました。昭和56年5月に入会させていただき、約8年間がすぐ早くたったような気がしています。青年協会は私の生活の中の大きな柱であったと思っております。ローカルの会ではあるが何ものにも挑戦するチャレンジ精神をもち、団結力、行動力のあるすばらしい協会が私は大好きでした。今後ますます会員のみなさんが、長崎青年協会を大きく発展させて行く事を心から願っています。卒業しても事業などある時は、いろいろな面で協力して行くつもりです。会員の皆様がんばって下さい。本当に8年間ありがとうございました。

松本 直行

S 23・5・7 生

昭和55年4月に入会し、9年間青年協会に在籍し、平成元年の年に無事卒業す

ることができ私自身、感謝の気持ちで一杯です。私にとって青年協会は青春の一部で大きな比重をしめしました。良き先輩、後輩と知り合うことができ小さな自分ではできない事が、団体になるとなんでもできるという事を知り、すばらしい事だと思いました。青年協会は野武士の集団と言われますが、その伝統を守りこれからはがんばって下さい。

濱口 康幸

S 23・5・27生

正直なところ、もう卒業なのか？と思っている次第です。私にとって青年協会は人生の一部だといっても過言ではありません。一年間のブランクの時でした。

私は人生の岐路に立ち、悩んで悩み抜いていた時、精神的に支えられ又、力になっていただいたのも協会の先輩であり仲間の方々です。一生涯忘れられぬことです。今後はOBとして協会活動にできるだけ参加させていただきますので今後と

もよろしくお願いいたします。最後に、長崎青年協会の今後の益々の発展をお祈り致します。8年間お世話になり本当に有り難う御座居りました。

森山 茂

S 23・7・5生

あつという間の11年でしたが在籍期間中は、いろいろお世話になりました。すばらしい思い出を胸に抱き卒業いたします。62年の会長の時には、貴重な経験をさせていただき、会員の皆様方には感謝の気持ちでいっぱいです。これからの青年協会の益々の発展を心から祈念致します。

海野 博

S 23・7・10生

私は青年協会に8年間御世話になりました。終えてみると短い8年間ではあります、いろんな用事が重なり苦い思いをした時もありました。しかし、いざ卒業となると多くの事業に参加できたことや、いろんな分野の講師、講演をうける

ことができたことなど、青年協会会員であったからこそ体験できたのだということが実感となり何か感ずるものがあります。自分なりにたくさんのお世話を受けて頂きました。それらのことを有形・無形問わず、一つのささえとしていきたいと思えます。本当に有難うございました。会員の皆様方の益々の御発展を心よりお祈り申し上げます。

金子 寿英

S 23・7・22生

昭和53年4月創立10周年度に入会し、平成元年3月創立20周年の年度に卒業する事になりました。この間すばらしい仲間と出会えたのは、今後の私の人生にとって大きな心の支えとなる事と思えます。我々は卒業しますが、力強い後輩達が栄光の青年協会を継承し、発展させてくれる事でしょう。大いに期待しています。11年間本当にお世話になりました。

松本 善郎

S 23・7・30生

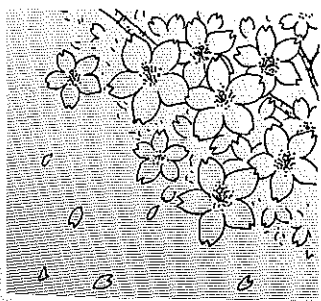
先日3月22日に私共卒業生者に対してあのようなすばらしい送る夕べを開いていただき、本当にありがたうございました。10年間お世話になった青年協会を卒業するのと思う時、やはりさみしい気持ちです。当協会ではいろんな勉強をさせてもらいました。そしてすばらしい仲間を知ることが出来ました。そういう意味でも、この協会を満足した7人のチャーターメンバーの方、そしてそれを支えてこられた諸先輩達に厚く感謝致します。100余名の現会員の皆さん、このすばらしい青年協会をもっともっとすばらしい会に育ててほしい。若い人は、この青年協会を人生の道場として自分自身を磨き、青年協会憲章を基本としてがんばってもらいたいと思います。青年協会の増々の発展を祈っています。

布施 健一

S 24・2・20生

私は、青年協会への入会が昭和五十八年六月で、34才の時、早や六年、40才になり卒業の時を迎えました。40才という年令は、厄入り、いろんな意味で節目ではないかと思う。人生の折返し地点への到達である。

私は最近、健康な体を維持することが肝腎である。健康であって、仕事、遊びその他すべてのことに活力をみながらせ楽しくなる。健康は何にも勝る貴重な財産。私は今、健康な自分に感謝し、これからも健康でありたいと願っています。皆さんも健康に注意して活躍して下さい。



同好会報告

ゴルフ同好会

江村会長杯最後の取り切り戦と、野上会長杯の第1回ゴルフコンペを3月12日(日) 島原カントリークラブにて行ないました。

前夜は恒例のクラブハウスにて懇親会を行ない、泊りの15名でゴルフ談話や福引き等を行ない夜遅くまで賑わいました。又、現役最後のゴルフコンペとなった卒業者の皆様に、ささやかではありますがお同好会よりプレゼントを贈りました。

当日は、全員6時頃起床し、有明海より登る朝日を見ながら朝食を済まして、午前7時24分にO.U.T・I.N同時にスタートしました。その結果、取り切り戦の優勝は杉本君(ネット81)又、野上会長杯第1回優勝は渡辺(秀)君(ネット70)、準優勝は桑田君(ネット74)3位に江村直前会長(ネット76)でした。

皆様、本当に御苦労様で

した。次回は5月中旬に大村湾カントリークラブを予定しております。多数の参加を、お待ちしております。ゴルフ同好会幹事 金田 田川(僞)



ソフトボール同好会

去る3月24日、平和会館において、監督会議および組合せ抽選会が行なわれた。青年協会は19番クジを引き当て、一回戦は不戦勝。

今年、新戦力も加わりシーズンオフの間の自主トレの力を発揮し、底迷している同好会のイメージを打破する為にも、今年こそは初戦突破を目ざす！
OB諸兄、現会員の絶大な声援と差し入れをよろしく御願います。

キャプテン 岩満

国際交流

ハタ揚げ大会

◎国際交流委員会主催

去る3月26日午後一時より風頭公園において国際ハタあげ交流会が行われました。

相憎の雲り空でしたが、約40名もの留学生・長崎在住の外国の方々やその家族が集まって下さいました。

会長挨拶に引き続き一人一人の自己紹介の後、場を長崎風資料館に移してハタの作成に挑戦しました。

ハタ職人の小川さんの指導のもと、用意してあった骨組にそれぞれが自由に絵を描き手作りのハタの初揚げを再び風頭公園で試みま



小川氏よりハタ揚げの説明

亀や龍、花々や子供たちの自由な絵などに国々の特色が表れ国際色豊かなハタが多数見受けられました。

小川さんから長崎のハタの特徴やそのあげ方(タテの骨の頂点の方向によって上げ下げが決まる。上向きの時糸を引けば上昇し、下向きならば下降する)の説明があり、先ず手本として小川さん自身が揚げて下さいました。

ハタあげには適さない全くの無風状態にもかかわらず見事に揚がり、思わず拍手が起こり皆一斉に自分の手作りのハタを揚げ始めましたが、風が無いため皆さん悪戦苦闘し結局小川さんの他には誰ひとり揚がりませんでした。

途中、初天城さんからお汁粉の差し入れがあり、ハタ寒さとハタが揚がらずがっかりとした気持ちを暖めてくれました。

子供たちは広い公園で遊び回り、大人はハタ揚げに熱中し、春の一日を有意義



ハタ製作風景

に過ごせたようです。

また、揚がらなかつたものの世界にひとつのハタは皆さん自宅に持ち帰られたようです。

招待した人々のうち代表のウーさんから最後に「このような交流の場があればいつでも参加したい」との言葉をいただき、事故もなく盛会のうちに終了しました。

編集後記

今号をもちまして、昭和63年度広報誌も最終号となりました。本当に一年間のご愛読ありがとうございました。スタッフ一同心より御礼申し上げます。